

# これからの野麦峠スキー場について

## 【報告書】

1. 本報告書の作成趣旨
2. 野麦峠スキー場の現状について
3. 今後地元で取組んでいきたいこと
4. 野麦峠スキー場についての奈川地区の考え
5. 本報告書のとりまとめ経過

持続可能な奈川地区推進協議会

2024年3月

# 1 本報告書の作成趣旨

## 1-1 本報告書の作成背景

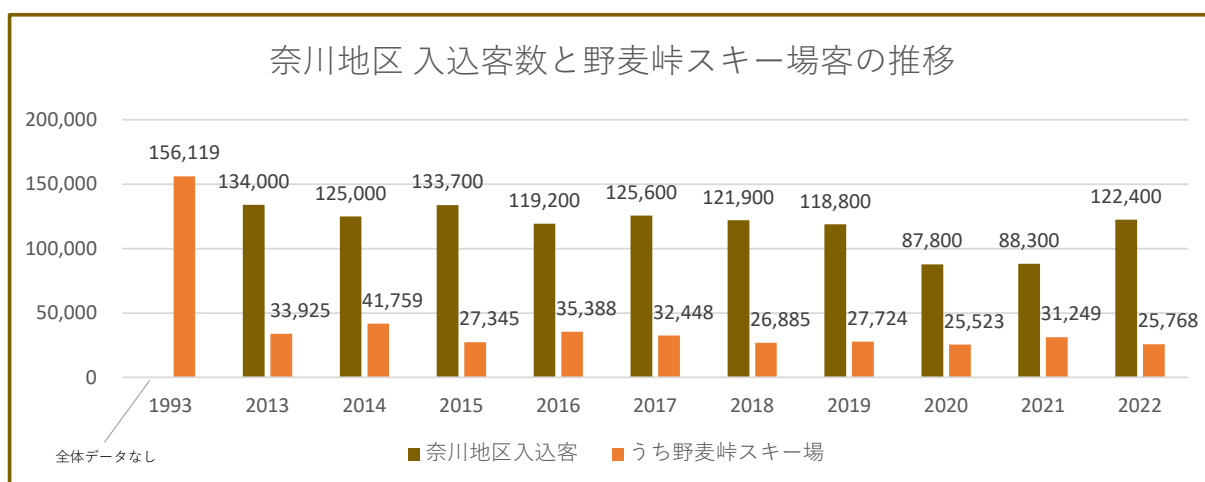
奈川地区にある野麦峠スキー場は、1981年(昭和56)に奈川村営として開設し、地域内外の人たちのウィンタースポーツやレジャー、観光、交流の拠点として、奈川地区を象徴する場として存在してきました。スキー人口の増加などに伴いコース拡張とリフト増設も進め、1993年(平成5)のシーズンには15万人以上の利用者がありました。

2005年(平成17)には奈川村の編入合併に伴い、松本市営の「松本市野麦峠スキー場」となりました。2008年(平成20)には指定管理者制度を導入し、「株式会社岳都リゾート開発」に運営を担っていただいています。



年	野麦峠スキー場の沿革
1981	奈川村営として開設
1987	クワッドリフト「スカイライナー」開設
1992	高速ペアリフト「スカイラビット」開設
2005	合併により「松本市野麦峠スキー場」となる
2008	株式会社岳都リゾートが指定管理者となる

しかし、スキー人口の減少などに伴って利用客数は減少の一途をたどり、2010年代に入ってから、ピーク時の1/5のおおよそ3万人前後となっています。利用料収入(リフト券、レストラン利用等)が減少する中で、設備費(リフトのメンテナンス、降雪機の導入など)の確保も必要であり、スキー場の経営状況は厳しい状態が続いており、市の財政負担も多額になっています。加えて、近年の燃料費の高騰や気候変動による降雪量の減少・シーズンの不安定化、コロナ禍なども重なり、野麦峠スキー場を取り巻く環境はますます難しくなっています。奈川地区内の宿泊施設の数も近年減少してきていますが、スキー客の減少による収入減や、スキー場の先行きが見えない中、次の世代への継承をためらうことも要因の一つとして考えられます。



このような中、松本市の中でも最も人口減少や高齢化が進展している奈川地区においては、将来にわたって暮らし続けることができる地域となるために 2021 年 9 月に「持続可能な奈川地区推進協議会」を設立しました。地域住民をはじめ、関係団体や松本市、専門家などが様々な意見交換や調査、ワークショップなどを経て、2023 年 8 月には『奈川のみかたをふやす道標 -持続可能な奈川地区推進計画 2023-』を策定しました。

この推進計画では奈川地区の総合的な地域づくりの指針とともに、4 つの視点に沿った具体的な取組みについて示しています。

その中で、野麦峠スキー場の今後については、奈川地区の観光・交流全体に大きな影響を与えるテーマであることから、今後の重点的な取組みの一つとして位置づけています。そこでは、存続や廃止といった 2 者択一の議論ではなく、推進計画で示した地域づくりの方向性に照らし合わせながら、2023 年度内には今後のあり方を定めていくとしています。本報告書は、産業振興部会の議論や関係者のヒアリングに加えて、様々な状況を考慮し協議会として野麦峠スキー場の今後について考えをとりまとめたものになります。



推進計画

## 1-2 本報告書の作成の目的と位置づけについて

野麦峠スキー場の今後については、これまでの検討会議やヒアリング等からも、野麦峠スキー場の現状について危機感や不安感を抱いている住民が少なからず存在することが明らかとなっています。

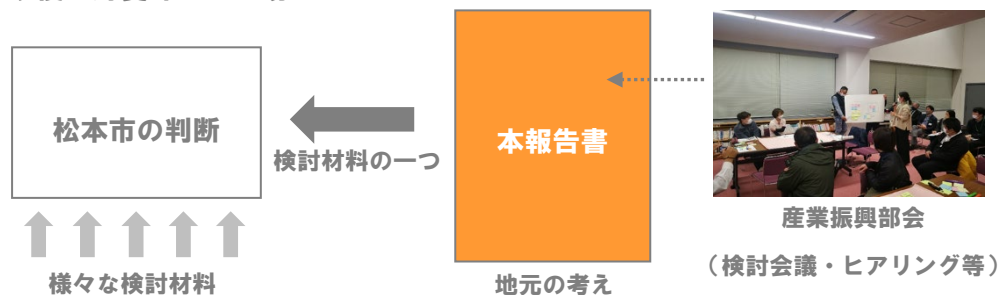
また、市の担当課からも財政状況が厳しいという説明がありました。野麦峠スキー場は松本市の施設であり、事業運営についての判断を松本市が行うことについては理解していますが、地元の考えが市に伝わらない形での突然の方針決定が出されてしまうと、奈川地区全体のまちづくりの方向性や、スキー場に直接的・間接的に関わる住民の生活に負の影響を及ぼしてしまう懸念があります。

したがって、スキー場の今後については、奈川地区の未来にとって総体的にプラスとなる形で捉えていかなければならないと考えています。

本報告書は、持続可能な奈川地区推進協議会における地域の観光・交流について検討を行う「産業振興部会」を中心とした検討会議やヒアリング調査を通じ、現時点での野麦峠スキー場についての考え方をとりまとめたものです。

本報告書の内容を松本市にも認識していただき、今後の野麦峠スキー場のあり方を議論する際の検討材料の一つにしていただきたいというものです。

### 今後の野麦峠スキー場について



## 2 野麦峠スキー場の現状について

野麦峠スキー場は、国内でも屈指の標高 2,130m にあり、標高差は 730m、全長 4,000m あり、圧巻のダウンヒルを楽しめるコースとして、特に上・中級者のスキーヤーの人気を得ています。松本市外、さらには中京エリアなどから来訪する愛好者も多く、地元住民との交流の場にもなってきました。リフトは計 4 基の比較的小規模のスキー場ですが、ゲレンデ上部からは乗鞍岳・穂高連峰などの北アルプスや御嶽山が一望できるダイナミックな眺望も大きな魅力です。一方で、本提言書の冒頭で述べているとおり、近年は利用客数の減少とともに、設備の維持管理費などによる経営面の課題や、降雪量の不安定化等による運営面の問題も抱えています。

### 2-1 野麦峠スキー場の地域における価値

野麦峠スキー場のこれからを考える上では、このスキー場が奈川地区にとってどのような存在で、どんな役割を担ってきたかについても確認しておく必要があります。これまでの検討会議やヒアリングにおいて得られた主な意見は以下のようなものでした。

- 奈川地区のまちづくりを象徴する場所であり、特にシニア層にとっては地元住民がつくってきたという意識が大きい。
- 以前はスキー客の数も多く、他地域からの来訪者はもちろん、学生の合宿など地域外の人たちとの交流や出会いの場としての役割を担ってきた。
- 学校の授業や子どもたちの遊びの場など、冬季に若い世代が学んだり楽しめたりできる場があった。
- スキークラブの活動やスキー指導員の育成など、地域活動やボランティア、趣味活動などを実践できる場としての機能があった。
- 観光拠点としての経済的な価値とともに、以前は地元住民の冬季雇用の場としての役割も大きかった。

野麦峠スキー場は奈川地区の観光拠点の一つとして、地元経済や雇用の場として、大きな役割を果たしてきました。また、地域外からの来訪者と地域住民の交流の場としても大切な場所であったと言えます。スキー場での出会いをきっかけに、繰り返し奈川地区に訪れてくれるファンが生まれ、奈川地区への移住につながるケースも見られました。また、奈川スキークラブは、イベントの開催やスキー・スノーボードのレッスン、スキー級別テストなどを展開し、人材育成や楽しみの機会をつくることで地域のスキー文化を育んできました。さらに、子どもたちの学びの場であることや、地域住民のまちづくりの原点でありシビックプライド(地域に対する誇り)を醸成する場としても大きな存在意義がありました。



## 2-2 野麦峠スキー場が抱える課題について

### ① 経営上の課題

野麦峠スキー場が抱える課題については、利用客の減少は地域住民も以前から感じており、更なる利用客の減少となれば、その存続は非常に厳しいことは認識しています。産業振興部会の検討会議では、市の担当課からスキー場の会計推移や、財政面での今後の課題についてのデータも示していただき、地元としても改めて課題意識を共有することができました。運営や維持管理に係る費用の大部分について公費を原資としている以上、奈川地区の住民だけではなく、広く松本市民全体の意見も考慮していかなくてはならないことも理解しています。

松本市会計年度比較

単位：千円

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
野麦峠スキー場 事業費	78,570	108,950	91,192	116,872	116,497	203,013	118,069	210,169	117,870	103,559
指定管理料	23,858	26,358	29,166	27,525	31,385	31,035	30,358	32,105	30,587	30,587
リフト整備費等	54,712	82,592	62,026	89,347	85,112	171,978	87,711	178,064	87,283	72,972

リフト収益	45,453	51,777	29,915	31,939	34,814	37,764	41,772	37,443	47,437	40,449
-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

年度	2023	2024	2025	2026	2027
リフト整備費等予定額	45,971	44,456	50,000	46,000	51,500
指定管理料 (2024年度以降予定)	51,707	50,160	16,820 8月期まで	未定	未定

オープンから40年以上が経ち、リフト以外の施設も更新時期を迎えている。降雪機も使えないものが一定数ある。地域で使用しているドーザーを借りている。

### ② ニーズや環境の変化

野麦峠スキー場の利用客は、近年では年間3万人前後の推移(ピーク時の1/5)となっています。ゲレンデの特性からスキー上級者に根強い人気がありますが、常連客も年齢層が高くなってきており、今後に向けては不安な面があります。地域内の宿泊施設においては、既にスキー場に頼らない運営を展開しているところもありますが、やはり冬季のスキー客対象が経営の中心となっている宿も存在しています。

また、気候変動による気温の上昇や降雪量の減少などにより、スキー場のオープン自体も難しい状況となってきています。頼みとなる降雪機の稼働にも多額の経費がかかり、営業期間も不安定な年が増えています。さらに、以前は地元雇用に大きな効果を果たしていたものの、現状では地元雇用も少ない状況となっています。

### ③ 各主体の関係性の変化

野麦峠スキー場は、1981年に奈川村営としてオープンした際には役場の直営であったため、スキー場の運営者と宿などの利害関係者、そして地域住民との関係が近いものがありました。松本市営のスキー場となった以降も、観光協会などがハブ役となり、市と運営者(指定管理者)、宿泊施設、地域住民が協力してイベントを行うなど、スキー場運営に関して地域内での連携が図られてきました。

しかし、近年はこのような関係性が希薄になっているということが今回の調査で分かりました。各主体の対話や連携の場が不足していること、スキー場の活用に対してそれぞれに任せしてしまっている課題があるということが見えてきました。

### 3 今後地元で取り組んでいきたいこと

推進計画に基づいた野麦峠スキー場における住民主体の活動などについては、今後も着実に実行していきたいと考えています。また、スキー場の関係主体の連携における課題解決の視点も含め、大きく以下の2点について取り組んでいきたいと思います。

#### 3-1 推進計画に基づいた交流・関係人口を生み出す取り組み

2023年8月に策定した推進計画においては、その理念において2つの「みかた」(見方・味方)を増やすことを唱えています。野麦峠スキー場においては、奈川地区の新たな価値の発見や創出、そして交流・観光人口を生み出す場として、まだまだ大きな可能性を秘めていると考えています。また、計画の4つの視点なかの「来訪者との新たな関係をつむぐ」においても、サマーシーズンの活用などの取り組みが定められています。

住民ワークショップ「奈川ぐるぐるカフェ」においては、地域内外のメンバーがチームをつくり、2023年8月に野麦峠スキー場で「ながわ青空マルシェ&マーケット」を開催しました。老若男女、数多くの方々がスキー場に来場し、新たな喜びや出会いが生まれる場としての可能性が示されました。



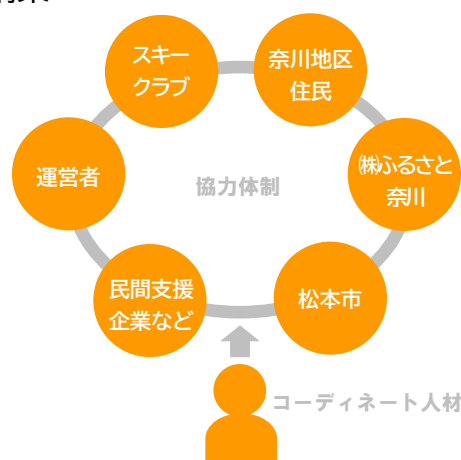
ながわ青空マルシェ&マーケット

#### 3-2 地元・運営者・行政によるパートナーシップの再構築

野麦峠スキー場の運営主体である松本市や指定管理者、地区内の宿泊施設、スキークラブなど、関係する主体の関係が希薄になっていることがヒアリング等の調査で明らかとなりました。

関係各主体による協力体制を再構築し、スキー場における新たな取り組みアイデアの実現や、運営を支える仕組みづくりについて検討・実行していきたいと考えています。

また、2025年度に地域で採用予定のコーディネーター人材(地域おこし協力隊の制度活用を想定)による協力体制の強化も図っていきます。



## 4 野麦峠スキー場についての奈川地区の考え

野麦峠スキー場は、奈川地区にとってとても大きな存在です。先述のとおり、スキー場の今後について判断するのは松本市です。そのうえで、これまでの検討部会での取り組み結果を踏まえ、松本市には次の3点について考慮していただきたいと考えています。

### 4-1 松本市の公共施設としての多様な視点からのスキー場の評価

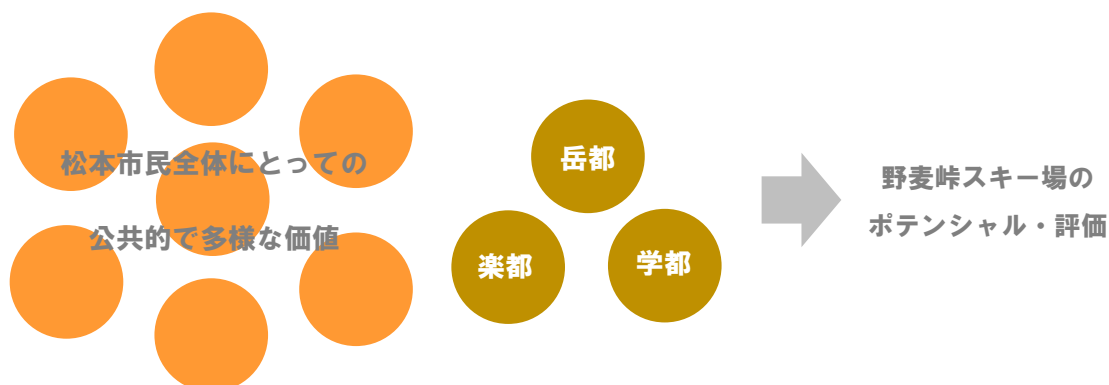
野麦峠スキー場の今後のあり方について、多額の公費の投入も含めた経営的な側面が判断材料の一つになることは理解しています。しかし、「松本市営」であることは、公共施設としての多様な価値を持っていると捉えることもできます。奈川地区住民のみならず、広く松本市民全体の財産であり、経済合理性に捉われない市民にとっての価値を評価していただきたいと思います。

2-1 で示したとおり、野麦峠スキー場は奈川地区住民にとって様々な価値のある場として存在してきました。時代や環境の変化によってそれらは薄れつつあるものもありますが、推進計画を策定したこのタイミングにおいて、今一度、スキー場の価値や可能性について考え、取り組んでいきたいと考えています。

また、松本市全体を見たうえで、市民のウェルビーイング(心身の健康や幸福感など)に資する貴重な資源となる可能性があります。リフト券の「市民割」や市内小学生への無料券の配布など、既存の取組みに対する検証や、広く松本市民をターゲットにした新たなアプローチも大切な視点であると考えます。

市の総合計画における『三ガク都』(岳・楽・学)のコンセプトにおいても、野麦峠スキー場の存在はさらなる多様な価値を秘めていると思われる。「岳」では山岳エリアにおけるレジャーや交流の拠点の一つとして、「楽」では音楽をはじめとする文化の継承や創造、市民や来訪者の楽しみを生み出す場として、「学」では子どもはもちろん、社会教育や環境教育の場としての可能性なども考えられます。

このような、松本市の公共施設としての多様な価値について評価・検証したうえで、野麦峠スキー場の今後のあり方について判断していただきたいと考えています。



### 4-2 スキー場に対する地域住民の多様な考え方や生活状況への配慮

今後の野麦峠スキー場のあり方については、検討会議においては当面は継続してほしいという意見がほとんどでした。一方で、ヒアリング結果も含め、松本市に早く判断を示してもらいたいという意見もありました。スキー場に対する住民の考えは多様なものがあります。スキー場の機能を永続的に残してほしいという意見があれば、夏場の利用促進やキャンプ機能の導入など新たな視点での活用、さらにはス

スキー場としての機能にはこだわらず、他の観光施策・事業への予算の配分や、福祉・医療の分野に予算を配分すべきだという意見もありました。

奈川地区の宿泊施設については、“スキー場に頼らない経営”を展開しているところも多いですが、一方で、飲食店や商店も含め、一定数は“スキー場を頼りにしている”ところもあり、野麦峠スキー場の存在が生業や生活に与える影響も様々です。

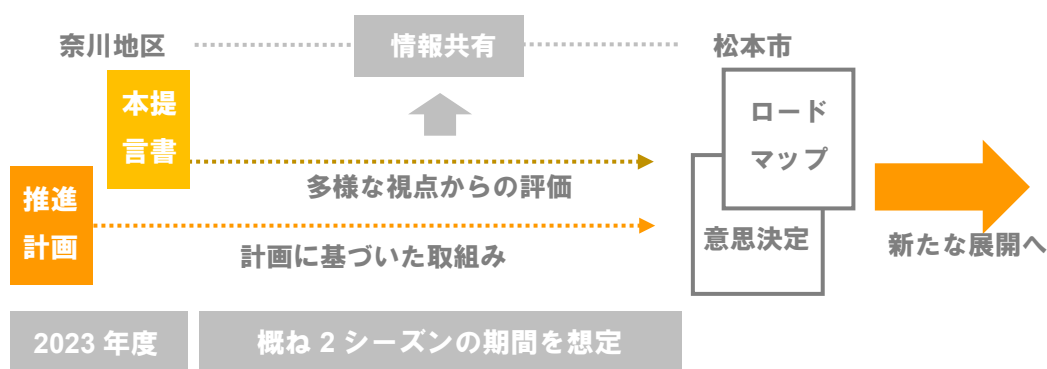
また、農業を通して雇用創出を図る新しい営みが始まる中で、奈川地区だけでなく周辺地域と連携し、スキー場を含めた年間を通しての雇用を考える必要があるという意見もありました。

このように、野麦峠スキー場を巡り、多様な意見があることがあらためて浮き彫りになりました。松本市には、野麦峠スキー場の今後を検討する際、こうした多様な考え方や生活状況への配慮をおねがいするとともに、今回の報告書を契機に、地域住民をはじめとする関係主体と今まで以上に密なコミュニケーションをとっていただくことをお願いしたいと思います。

### 4-3 今後のスキー場のあり方の意思決定とロードマップの提示

野麦峠スキー場の今後のあり方については、これまでも地元と松本市で方針確認の必要性が論じられてきました。スキー場の存廃を含む大きな方向性の意思決定については、関係各方面への影響もあるため、これまでは慎重に進めてきた面もありましたが、スキー場の方向性が決まらない状況においては、他の取組み(主に観光交流に関する事項)も前に進まない状況になっています。推進協議会においては、こうした状況から脱却する段階に移行するべきと捉えております。

具体的には、まず、今後のスキー場等における新たな取組みの実証結果や、4-1 で示した松本市における多様な価値についても検証していただくためには、一定の期間は必要であると考えています。そのうえで、この間も双方で情報共有しながら、野麦峠スキー場のあり方について松本市の意思決定をお願いしたいと考えています。また、その方向性を実現するためのロードマップ(政策的対応や事業メニュー、スケジュール感など)についても合せてお示しいただきたいと考えます。地域でも、推進計画に基づいて地元としてできることについて松本市や関係団体などと連携しながら、検討・実行していきたいと思ます。





## 5 本報告書のとりまとめ経過

本報告書は、持続可能な奈川地区推進協議会における産業振興部会の取組みを通じてまとめられました。本章ではこれまでの取組み経過と、それらの内容について記載します。

### 5-1 これまでの取組み経過

産業振興部会では、2023 年の春以降、主に野麦峠スキー場をテーマとした検討会議やヒアリング調査を実施しました。

#### ■検討会議(2023 年 3 月 14 日)

- ・松本市から「奈川地区の観光に関する現状」と「野麦峠スキー場の現状」について説明
- ・意見交換(グループワーク)
  - ① 奈川地区の観光交流施設の現状と可能性について
  - ② 野麦峠スキー場の地域における価値と可能性について



#### ■検討会議(2023 年 4 月 19 日)

- ・松本市から野麦峠スキー場の今後の可能性(3 パターン)の提示
- ・意見交換(グループワーク)
  - ① 現状の形でスキー場を存続するとしたら
  - ② スキー場の民間参入の可能性を探るとしたら
  - ③ スキー場を廃止の方向で進めるとしたら



#### ■関係者ヒアリング(2023 年 12 月 12 日～15 日、27 日)

- ・訪問及び地域づくりセンターでの対面式、各 1 時間程度
- ・計 16 件 (宿泊施設 :10 件、飲食店・商店・石油販売・スキークラブ・(株)ふるさと奈川・岳都リゾート開発(株):各 1 件)



#### ■検討会議(2024 年 2 月 28 日)

- ・これまでの経過、ヒアリング結果の報告
- ・提言書原案の確認
- ・提言書内容等に対する意見交換

#### ■推進協議会総会(2024 年 3 月 12 日)

- ・報告書内容の確認・承認



## 5-2 検討会議(3/14、4/19)とヒアリングの記録概要

### ① 検討会議

◇第1回:日時:3月14日(火)18:30~20:30 会場:夢の森 図書室 参加者:20名

- ・開催趣旨と今年度の取組み経緯の説明
  - ・松本市(アルプスリゾート整備本部)から「奈川地区の観光に関する現状」と「野麦峠スキー場の現状」について説明
  - ・意見交換(グループワーク)と発表、共有
- ① 奈川の観光交流施設の現状と可能性について ② 野麦峠スキー場の今後について

◇第2回:4月19日(水)18:30~20:30 会場:夢の森 会議室 参加者:22名

- ・野麦峠スキー場の今後について市から3つの可能性示し、それぞれについて意見交換
- ① スキー場は廃止の方向で検討を進めていく ② スキー場の民間参入の可能性を探る  
③ 現状の形でスキー場を存続
- ・3つの方向性について参加者の想いを投票



⇒第1回では、観光交流施設全般については、時代の変化に応じた奈川の観光振興策についての意見も見られた。(ウッディ・もっくはコンパクトな入浴施設としてリニューアル、キャンプ場の施設整備と上質化、天体施設を含めての新規メニュープログラムの開発、白樺峠ワシタカ渡り園地整備、老人福祉施設誘致、そばの里集落の整備、そばのブランド化など)

⇒奈川の生活をベースとした交流を重視する視点や、豊かな自然環境を生かしたソフトプログラムの充実に対する意見も多く見られた。(山菜、昆虫、トレッキング等)

⇒観光をコーディネートする人材発掘や育成についての意見も見られた。

⇒野麦峠スキー場については、その担ってきた役割として、「地域内外の人たちの交流」、「奈川ファンを生み出す場」、「子どもたちが自然とふれあえる場」、「地元雇用の場」(近年はあまり効果がないう)、 「地域のシンボリックな場所」という意見が出ていた。地域にとって大切な場所であることを次代につなげながらも、今後は「スキー」に拘らなくてもよいのではないかという意見もでていた。

⇒第2回では、①「スキー場は廃止の方向で進めていく」、②「スキー場の民間参入の可能性を探る」、③「現状の形でスキー場を存続」の3つのパターンで意見交換。それぞれについて、メリットとデメリットを出し合った。

⇒スキー場の財政的な難しさについては地域住民も理解している一方、心情的には当面は存続してほしいという想いがほとんどだった。

第1回産業振興部会 意見交換①「奈川の観光交流施設の現状と可能性について」 意見整理表

	カテゴリー	良い点・魅力など	難しい点・課題など	可能性や新たなアイデアなど
観光交流全般に関する事	情報発信		・PR不足 ・宣伝のやり方が課題	・奈川地区でYouTube配信
	暮らし	・上高地、乗鞍、白骨への通り道というロケーションは観光にガツガツしていない場所。のどかなところ。穏やかな田舎。 ・人が親切。人情味がある。		・高齢になっても畑仕事をしていると元気に暮らせる ・心身ともに健康な暮らし（畑×観光施設での仕事）
	自然	・ダム湖に映る秋の紅葉 ・自然が豊か ・奈川はどこの自然に恵まれていて、都会のお客様がほっとできる場所		・猿山をアビール、動物アビール
	交通		・交通が不便 ・道路が悪いことで嫌煙される。インフラ整備が必要。 ・地元の人はずっと下に行ってしまう	
	雇用	・奈川外の人に、蕎麦屋をしたい人が多い	・働き手が不足して施設の良さを生かしていけない ・移住者の家がない	・地元雇用にこだわらず、外からも募集する ・地域全体で求人できないか？ ・心身ともに健康な暮らし（畑×観光施設での仕事）
	買い物		・地元の人はずっと下に行ってしまう ・地元の人はずっと下に行ってしまう	・宿泊や食にこだわらないお金の使い方の提案
	その他		・テニスブームが去った ・いい時代は過ぎた	
観光交流施設に関する事	施設全体	・アウトドア人気でキャンプニーズは高くなる ・松本市街地から近い ・サイトや設備などが良い	・施設の維持管理が良くない。大事にしていない。 ・施設の改修工事が多い。施設の老朽化。 ・キャンプ場の差別化がない	・トイレをきれいにする
	高ソメキャンプ場	・景色はすごい ・星空がきれい ・高ソメキャンプ場は乗鞍が美しい	・天体望遠鏡の修理 ・アクセスルートをもっと管理できれば。雑草など。 ・奈川に買い物できる場所がないので、キャンプ場に来る前に食材などを調達してきてしまう	・キャンプ場と渓流釣りのセットのツアー
	野麦峠オートキャンプ場	・野麦峠オートキャンプ場に黒川渡子ども会で行った気分になった。		
	ウッディ・もっく	・温泉のお湯がとてもよい	・お風呂の温度管理 ・営業時間	・キャンプ場と渓流釣りのセットのツアー
	フォレストフィールド	・広々として、子どもも楽しく遊べる遊具がある ・車がないので、安全な子どもの遊び場	・滑り台を解体し、森になり狭くなった。維持の仕方	・補助金の問題があるのですが、キャンプ場やフェスの場所になるのでは。 ・キャンプ場 ・ドッグラン ・フォレストフィールドをキャンプ場にする
	飲食店	・清水牧場チーズが美味しい ・そば、とうじそば ・そば、山菜等食の宝庫になれる飲食店 ・奈川の蕎麦の味はどこにもない美味さだとお客様全てに言われる ・とうじそば発祥の地。もっと増やせるそば店 ・奈川外の人に、蕎麦屋をしたい人が多い	・サービス面 ・蕎麦屋を始めたくても、移住者住居がない ・そばの打ち手が少ない	・時間をつぶし、お店の人とゆっくり話せるようなカフェ ・第1目的以外の時間をつぶす場所 ・閉店している蕎麦屋を活かす ・そば食べ歩きできる工夫
	宿泊施設			・バスの公共交通としての活用
	クラインガルテン	・景色がいい ・3つともそれぞれ良し ・管理等からの景色が最高！（大原クラインガルテン）	・"期限"があること ・通年居住できるような施設に	
	奈川高原エリア（体育館）		・奈川高原エリアの設備が十分に活かされていない ・企業の保養施設が減った、お金をかけなくなった	・社会人チームを招致して合宿してもらおう（体育館、宿泊施設）

【意見交換で数多くあがった視点】

- ・奈川地区は乗鞍・上高地などと異なる性質があり、その独自性を生かすという視点
- ・単に観光客数を増やすという考えではなく、奈川の生活をベースにした交流を重視する視点
- ・キャンプ場への評価は高く、渓流釣りなども含むアウトドアのプログラムへの期待に関する視点
- ・キャンプ場、ウッディ・もっくなどの維持管理や設備更新に対する課題の視点
- ・そば店を含む飲食店の減少や継承への課題の視点
- ・観光交流に対するPR策、情報発信策の必要性の視点
- ・観光コーディネーターなどの人材不足、人材育成の必要性の視点

第1回産業振興部会 意見交換②「野麦峠スキー場の価値や今後について」 意見整理表

グループ	野麦峠スキー場がこれまで地域で担ってきた役割について	現状の課題点など	今後、野麦峠スキー場がどうなっていってほしいか
1	タテズの坂の迂回路	初・中級者に難しい	シニアに魅力的なPRやプログラム
	斜面（ゲレンデ）、雪質の特色	今の4倍の集客は難しい。経費の課題は大きい	山菜採り
	シニアに愛されている	地元雇用にならないのは当たり前。適正年齢者がいない	植栽。奈川ならではの花ワレモコウ（環境教育の場として）
	スキー選手の育成	センターハウスが古くなっている	夏場の活用（花畑など）
	スキー指導員の育成	降雪機の性能によって早くから雪を降らすことができない	星空観察
	トレイルランの実証の場	地域での滞在時間が短い	
	中京・関西方面からのお客が来てくれた	観光客（スキー場利用者）の動向調査	
	宿・食堂・販売店など雇用の場たくさんあった		
	冬の雇用確保ができた		
	他県の学生の合宿もかつては多かった。（ゲレンデ、コースの良さ）今はない		
2	地区外から働きに来ている人も大勢いた		花畑にする（夏の集客）
	副業ができた。土日のアルバイトが自由だった		夏の集客ができるような施設にする
	酒屋はじめ周辺の宿や店にも収益がたくさんあった		イベントができると良い。夏に1回でも。
	入り込み集客がすごかった		森フェス（丸太を切る、順位を決める）
	雇用の場だった。奈川の大勢の人が働いていた		奈川住民に対して割引制度。地元の人が行きやすいように
店もあって、集いの場だった		カフェ	
3	子どもが体育で行く場所	降雪機を新しくしても気候が変化してきている	展望デッキをみんなでつくってほしいのでは？
	奈川の子どもたちはみんなスキーが滑れる		下りも乗れるリフトがあれば、展望を見るだけの観光客もスキー場に呼べる
	有名人も輩出している		いっそ夏リフトにしてしまう？
	有資格者（指導）が増えた		夏はスキー場を高山植物を見ながら歩く
	山々の眺望は捨てがたい（富士山が見える）		車で頂上まで移動できる
	「奈川自然案内の会」があった		リフト改修費の活用を考える
	地域でもっとも集客できる場所だった		ガイドを育てる
	夏は花畑になる		奈川のくらしを知っている人にガイドになってもらいたい
			プロのガイドだけでなく、道草ガイド、おしゃべりガイドなど、住民がいろんなガイドさんになれたらいい
			副業としてガイドもあり 認定などの枠組みをつくる
4	奈川のファンが増えた	初心者向けのゲレンデが少ない	宿泊施設が増える（→移住者や地元雇用が増える）
	頂上からの展望がよい	子供向けのゲレンデが少ない	奈川ファンクラブは、市とも連携していきたい
	雪質が良くて競技者向けのゲレンデ		コーディネーターがほしい（地域おこし協力隊が担えるのではないかな？地元の人とペアで活動できるとよさそう）
	イベントを行って地元の人集う場所だった		子供用の遊具がほしい
	冬場の地元雇用の場を担っていた		夏場の活用（星を見る、カフェ等）
	スキー教室を地元で、スキーが身近な存在		夏場にリフトを使い、頂上に行って景色を楽しむ
			ゲレンデでモトクロスバイクの大会をやりたい スキー場でマルシェなどをやれるといいな

【意見交換で数多くあがった視点】

- ・以前はスキー客も多く（今は時代が変わったが）、地域の象徴的な場所として存在してきたという視点
- ・学校の授業や学生の合宿、他県からの来訪者、スキークラブなど、地域内外の交流の場としての役割を担ってきたという視点
- ・今後は「スキー」に拘らなくても良いのではないか（ニーズや経費的、人材的にも）という視点
- ・山頂からの眺望や自然環境に対する評価は高く、夏場の利活用など（マルシェ、カフェ、花畑など）新たなポテンシャルはあるという視点
- ・ガイドやコーディネーター人材の発掘・育成や、新たな仕事づくりの場としての可能性についての視点

第2回産業振興部会 意見交換「野麦峠スキー場の3つの方向性案について」 意見整理表

方向性① スキー場は廃止の方向で進めていく

メリット	デメリット	新たな展開
・予算を他にまわせるかもしれない	・解体費用が大きい	・他のスポーツに活かす（そり、スノーシュー、冬キャンプ）
・他のスキー場に行くこともできる	・子どもの冬のスポーツの場がなくなる	・わらび園になる。山菜、茸、山野草の全国販路
・メンテナンス代が高いから、他に予算がまわせるのではないか	・楽しみにしてくれているファンが悲しむ（居場所なくなる）	・雪で遊ぶ新たな施設（透明なボールに入って上から転がる）
・乗鞍が存続なら2地区のスキー場として協力もできる	・スキー場がない道路は単なる雪道になってしまうのか	・（小規模な）競技会を多数開催、初級クラスも楽しめるゲレンデに
・スキー場のない暮らしの次の展開について考えることができる	・そば店、宿泊施設など観光施設の入込みに影響があるのでは	・ドローン（輸送基地・学校・レース）、 <b>野外ライブの開催</b>
・スキー場がなくても生活に困らない人はいる	・スキー客で商売している宿や店の経営	・仮に辞めると決めるのであれば、地球に負荷をかけない地域づくりを
	・ゲレンデなどは自然にどう戻るのか？	・冬にはスキー目的でない客もいる。何らかの活路はあるかもしれない
	・冬場の集客が多い。冬に訪れる人が少なくなる	・冬の魅力をつくる。冬案内ができる人材
	・奈川地区の雇用がさらに少なくなる	・やめると決めたら、地球に負荷をかけない地域づくりを。
		・この冬、スキー目的でない客もいた。何らかの活路はあるかも

方向性② スキー場の民間参入の可能性を探る

メリット	デメリット	新たな展開
・新しいアイデアや楽しいイベントを創出	・手を挙げてくれる企業があるか？	・周辺事業者への波及効果
・雪がなくても営業できる、オールシーズン活用	・民間参入といっても、行政からの一定の補助がないと難しいのではないか	・地区内施設の一括管理運営、効率化も期待できるのではないか
・新たな運営ノウハウ、関連企業との連携	・民間企業は赤字になればすぐに辞めるリスクがある	・「年金でも来れるスキー場」に→他と比べて安い価格設定
・新しい食事メニュー	・地元との乖離が心配（何をしているかわからなくなりそう）	・松本市民全体を呼び込んでくれるかもしれない
・シャトルバスの運行	・企業のメリット、雪不足、補助金なしで運営ができるか心配	
・新たな人が来て移住につながる期待も		
・雇用により人口流出に歯止めがかかるのではないか		

方向性③ 現状の形でスキー場を存続

メリット	デメリット	新たな展開
・雇用の場になっている（地区外の人も）	・市全体の財政を圧迫しているのが気がかり	・スキーのついでに立ち寄れる場所づくり
・奈川の冬の収入源・集客は大切（宿・食事・風呂）	・施設の維持・修繕や更新にかかる費用増は市民の理解が得られるのか心配	・未圧雪エリア（バックカントリーエリア）を作ってインバウンドを誘客
・冬場の子供が集まる場は大切（ジュニアスキー）	・存続にしてもリニューアルが必要でさらにお金がかかる	・冬にスノーシューツアー、スキーキャンプツアー、BCクロスカントリーツアーなどを展開
・乗鞍スキー場の動向も影響するのではないか	・松本市内の2つのスキー場がお客の取り合いにならないか	・グリーンシーズンの誘客（MTB、オフロードバイク、Eバイク常設）
・シニアスキーヤーの交流の場	・指定管理者と地元とのコミュニケーションがとれていない。今後の方向性や意見を知りたい。	・指定管理者と地域の関係づくり
・年配にとっては現状の変化は受け入れづらい（変えたくない）	・スキー場としての運営には制度、ルールの壁もある	・乗鞍や野麦の2つのスキー場に協力して集客
	・黒字化するには現状の入場者数では難しいだろう	・存続している事例を調べる。
	・シニアのスキーヤーも今後さらに減っていくと思うのでどうするか	・わらび園になる。山菜、茸、山野草の全国販路
		・新しい降雪機を導入、より早いシーズンインを目指す

## ② ヒアリング

日程:2023年12月12日(火)~15日(金)、27日(水)

形式:訪問及び地域づくりセンターでの対面式、各1時間程度

対象:計16件(宿泊施設:10件、飲食店・商店・石油販売・スキークラブ・(株)ふるさと奈川・  
岳都リゾート開発(株):各1件)

### ■ヒアリング結果(主な内容を整理)

#### ◇宿泊施設等におけるスキー場の重要性について(宿泊施設:10件)

- ・宿泊客は冬季はスキーヤーが多い。固定客がほとんどであるが、宿の売り上げはスキーシーズンが主。スキー場は地域に必要な場所。夏に来てくれるお客さんも一定いる。春は山菜、今年の秋はそばを目標で来てくれている。
- ・以前は冬季で宿泊客の8割ほどを占めていたが、現在は4割程度。グリーンシーズンも含めた季節にも力を入れている。
- ・スキー客は常連が数組。グリーンシーズンには釣り客が利用する。収入的にはスキー客の割合がやや大きい。
- ・スキーの宿泊客はほとんどいない。スキー場は無くなっても仕方ないと思うが、寂しいとは感じるだろう。
- ・冬季の客は昔のピーク時の1/10程度。土日は常連の方が来ている。今年の夏は、通常の1.5倍ぐらい人が来てくれた。上高地に泊まる場所がないため、奈川に来る人が多い。登山ブームの影響もある。
- ・年間売上の2/3はスキー場。一人でできる範囲でやっている。スキー場の今後が不透明であるため、子どもに継いでほしいとは言えない状況。将来に、もし宿を売却することがあれば、スキー場があることで少しメリットはあると思う。
- ・スキー場が果たす役割は終わったと思っている。スキー場を当てにして営業することは考えていない。他のこと(福祉関係など)にお金を使ってほしい。
- ・近年は、スキー客はほとんどいない。常連客も年をとってきている。当初はスキー客が主だったが、ピークが過ぎてスキー客は徐々に減少していった。現在はオフシーズンが主になっている。スキー場は「あったほうがいい」くらいの考え。
- ・夏と冬のみ営業している。冬はスキー客、夏は学生の合宿が主。常連で経営は安定している。スキー場が無くなると経営は厳しくなる。
- ・スキー場は交流人口・関係人口を生み出す場所としては大切。宿としてはオールシーズンで考えている。



- 多くの宿泊施設で高齢化、後継者問題を抱えている。スキー場地区の宿は、以前は 17 軒あったが、現在は 8 軒。10 年後さらに 4～5 軒がやめる可能性もある。
- スキー客が主なターゲットである宿も現状では一定数存在しており、それらの宿屋や飲食店には野麦峠スキー場は大切な存在となっている。
- 一方で、既にスキー場に頼らない経営に転換している宿もみられる。グリーンシーズンの展開、外国人観光客へのアプローチ(現状はまだ多くない)、シェアオフィスへの転換などを考えている宿もある。

#### ■スキー場の現状に対する意見や評価(全体的な主な意見)

- ・高地にあるため雪質はよい。スキー上級者の評価は高い。
- ・リフトのメンテナンスは他のスキー場に比べてもよくやっていると思う。
- ・リフト料金はかなり良心的であるが経営できているのか心配。
- ・指定管理者との関係も希薄になってきている。以前はコミュニケーションできていたが、現在はほとんどできていない。
- ・センターハウスの改修が進まなかったことが課題。
- ・近年は降雪量が少なく、スノーマシンを稼働させないとスキー場として成り立たない環境。そのスノーマシンも故障していて使えないものがある。
- ・高速リフトが 2 本あるためリフト係が最低 8 名必要になる。少人数でなんとかやっている。
- ・現在は地元雇用も多くないが、そもそも地元の労働人口自体が少ない。
- ・地元のスキー場利用者が少なくなっている(奈川地区住民、松本市民)。
- ・地元(奈川地区)のスキークラブ員が減少している。メンバーの高齢化も進んでいる。
- ・スキー場が無くなってしまうと地域が衰退するのではないか。住民の心情的にも大きな存在。奈川には冬季に年間 3 万人近くも来てくれる場所は他にない。
- ・地元と市、指定管理者がもっと連携するべきだと思う。新たな取り組みも含め、これから数年は頑張ってみてはどうか。
- ・スキー場の存廃は地域全体の入り込みに影響する。スキー場の代わりに「何か」を考えいく必要もある。市が判断すれば地元も考えていけると思うが、今はそれができない状況。
- ・スキー場の今後については、指定管理者の意向も影響すると思う。現在の指定管理者さんの考えどうなのか心配な面もある。

#### ■指定管理者(岳都リゾート開発株)の意見

- ・当初から地域貢献の想いで続けている。その想いは今も変わらない。
- ・指定管理料の値上げもあったが赤字であり、永続的には難しいと考えている。
- ・燃料費、人件費の高騰などが重なってかなり厳しい状況が今後も予想される。
- ・宣伝広告や新たな事業展開に労力をかける余裕がない。「運輸業」であるため安全が第一。

おわりに

古川智史(松本大学専任講師 産業振興部会座長)

この度、『これからの野麦峠スキー場について』【報告書】をまとめる運びとなりました。この間の経過については、『奈川のみかたをふやす道標 -持続可能な奈川地区推進計画 2023-』(2023年8月)、そして本報告書に記載の通りです。

野麦峠スキー場は、奈川地区にとって大きな役割を担ってきたものの、時代の変化の中で様々な課題に直面しています。今回、産業振興部会での検討を通して、野麦峠スキー場に対する住民の方々の想いを整理するとともに、宿泊・飲食業を営まれている方々、指定管理者など関係者へのヒアリングをもとに野麦峠スキー場の位置づけを把握することができました。その中で、野麦峠スキー場を巡って各主体の関係性が「希薄化」していることが見えてきました。こうした実情を「見える化」できたことは、野麦峠スキー場の今後を考えるための土台になったと考えます。

一方、産業振興部会では、議論の進め方を含め、様々なご意見を頂戴しました。ご意見・ご指摘は真摯に受け止め、これまでのプロセスを検証した上で、野麦峠スキー場の新たな展開、そして「持続可能な奈川」の地域づくりに向けて着実に前進させていかなければと想いを強くした次第です。

ただし、野麦峠スキー場が松本市の公共施設であることに鑑みると、そのあり方については、奈川地区だけでなく、松本市全体で考えていかなければなりません。本報告書が、奈川地区の皆さんとともに広く松本市の皆さんが野麦峠スキー場の今後について議論を深める「きっかけ」に、ひいては奈川地区、そして多様な地区から構成される松本市全体の「持続的な地域づくり」に向けて考えを深める「きっかけ」になることを切望してやみません。

「これからの野麦峠スキー場について」(報告書)

発行年月 2024年3月

発行 持続可能な奈川地区推進協議会(事務局:奈川地区地域づくりセンター)

〒390-1611 長野県松本市奈川 3301 番地

TEL 0263-79-2121 FAX 0263-79-2903